

令和元年度山口県（山口市）地域社会柔道・剣道指導者研修会

開催期間 令和元年6月4日（火）～5日（水）
会場 維新百年記念公園スポーツ文化センター 武道館、レクチャールーム
派遣講師 【柔道】
田中裕之六段（全日本柔道連盟教育普及・MIND 委員会指導者養成部会委員）
遊佐英徳六段（宮城県柔道連盟理事）
【剣道】
水田重則範士八段（全日本剣道連盟普及委員会学校教育部会委員）
軽米満世教士七段（全日本剣道連盟普及委員会学校教育部会委員）
参加者 【柔道】15名
【剣道】23名

研修内容

【柔道】

はじめに、田中裕之講師による講義が行われた。人工知能の発達によってあらゆる仕事が自動化されていく時代において、人間は何で人工知能と勝負するか。それは「協働と創造」である。「協働と創造」とは、自分たちで考えて、正しい方向に進むということ、と説いた。また、学習指導要領に示された3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」は、室町時代より武道の修行方法として伝えられている「守・破・離」と共通しており、さらに明治時代に柔道の創始者・嘉納治五郎師範が解いた「精力善用・自他共栄」とも共通していると説明し、「教育の本質は変わらない」と結んだ。

続いて、遊佐英徳講師による実技に移った。柔道衣の着装方法から、礼法、姿勢（自然体・自護体）、体さばき、受け身を解説し、全員で練習した。

午後に実施された田中講師による固め技の講習では、はじめに抑え込みになる条件を「相手が仰向けになっている」「相手の束縛を受けていない」と説明。そして「条件のみを伝え、抑え込みの形は生徒に考えさせる指導方法もある。人から聞いたことは忘れやすいが、自分で考え、自分から獲得したことは忘れづらい」と説明した。続いて、2人1組となり、袈裟固めと横四方固めの、抑え方と逃れ方を練習した。



続いて、遊佐講師が膝車・体落とし・大腰を指導した。体落としの講習では、スモールステップの法則に基づき、受けは膝立ちの姿勢から受け身を取るように指導した。最後に、ジグソー法によるグループ討議を行い、初日の研修を終えた。

2日目は、田中講師の講義から始まった。主体的な学びを促す指導として、グループワークを活用。参加者は効果的な前回り受け身の練習方法を話し合い、お互いに評価し合った。その後、中学校武道必修化指導書に基づき、遊佐講師が固め技を指導した。

午後は投げ技の導入として、リズムに合わせた足さばきを指導。最後に投げ技の連絡技を行い、研修会の日程を終えた。

【剣道】

はじめに、軽米満世講師による「中学校保健体育における剣道の学習について」の講義が行われた。中学校武道必修化の経緯、新学習指導要領について、わかりやすく解説がなされた。続いて、剣道の歴史・特性についての解説、授業で行う体ほぐしの実践例として、じゃんけんゲーム、手拭いゲームなどが紹介された。次に、竹刀を振る体験として、新聞切り、ボール打ちを行い、和やかな雰囲気での研修が進められた。

午後は水田重則講師による「礼法・基本動作」の指導が行われた。立礼、座礼、正座、木刀の名称・安全な取り扱いの解説に続き、自然体、構え、足さばき、体さばきについて実演を交えながら、指導がなされた。「基本動作は、生徒が興味を持って取り組めるよう、指導者の工夫が大切。まず指導者がしっかりと基本を学び、自信を持って指導に臨んでください」と語った。次に、木刀による剣道基本技稽古法の指導。さらに「主体的な深い学び」の視点から、グループごとに基本技指導における課題を話し合い、課題解決のための学習例の発表が行われた。

2日目は、剣道具の着装の指導。続いて基本技の段階的な指導、簡易な判定試合が続き、最後に約束練習、自由練習が行われ、充実した内容の研修となった。



《参加者の声（中学校教諭）》

本校では年間10時間、柔道授業を行っています。授業での指導力向上のため、本研修会に参加しました。生徒たちに武道授業を通じて、何を教え、何を育てるかを学ぶことができました。講義は、とても惹きつけられる話ばかりで、多くのことを学ばせていただきました。